LS-18 DVDホームエンターテインメント・システム

取扱説明書 設置ガイド

※説明の便宜上、イラストは原型と異なる場合があります。

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は注意を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一、内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
		●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 警告

禁止	**通風孔のある機器のみ** ●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。 この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。 テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
⚠	●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。
禁止	●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。 ●この機器の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。 ●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。 ●この機器の上に、ろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。
分解禁止	●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。 ●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。
禁止	●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。 **ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ** ●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（容量）を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

⚠ 注意

禁止	●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 ●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 ●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 ●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。 ●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
⚠	●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。 **電池を使用する機器のみ** ●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
⚠	●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。
プラグを抜く	●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 ●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
⚠	●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。
⚠	●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。 ※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。
禁止	●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 ●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
プラグを抜く	●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してから行ってください。ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
⚠	●お子様がディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

Safety Information

⚠ 警告		●スピーカーコードの上に重いものをのせたり、コードが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーコードを傷つけて火災の原因となります。
		●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。
		●スピーカーコードを熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災の原因となります。
		●スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。
		●<本製品>を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。
		●熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。

⚠ 注意		●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
		●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。
		●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
		●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
		●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。

コピーコントロール CD や DVD ディスクでごくまれに本システムでの再生ができない場合があります。

そのようなディスクを再生して機械が反応しなくなったり、ディスクが取り出せなくなった場合は、下記の取出方法を試してください。

取出方法 ・・・注意参照

1. 電源コードをコンセントから抜きます。
2. 1分以上経ってから再び電源コードをコンセントに差し込みます。
3. 通常通り**Open/Close** (Open/Close) ボタンを押すとディスクを取り出すことができます。

注意

取出方法を行ってもディスクが取り出せない場合は、無理やりディスクトレーをこじ開けようとしたり本体を開けないでください。本体やディスクトレーにキズが付くばかりでなく、内部の CD や、DVD にもキズが付き、そのディスクを再生することができなくなる場合があります。
取出方法を試してみてもディスクが取り出せない場合は無理をせず、**ボーズ株式会社 ユーザーサポートセンター**までお電話ください。

ボーズ株式会社
ユーザーサポートセンター
☎ 03-5489-1388

Contents

Introduction

設置を始める前に

この度はボーズ社モデルLS-18 DVDホームエンターテインメント・システムをお買い上げいただきましてありがとうございます。

この設置ガイドをお読みになる前にクイックセットアップガイドにしたがって設置が終了されたお客様は、“「アダプトIQ」による音場補正（システム調整）”（22ページ）まで進んでいただいてもかまいません。
設置を終えられていないお客様はこの設置ガイドの順番にしたがって作業を行ってください。
また、必要なときにご覧になれるよう保管しておいてください。

再生できるディスクについて

LS-18のDVD/CDプレーヤーは、以下のタイプのディスクを再生できます。

名称	DVD ビデオ	音楽CD	ビデオ CD	CD-R または CD-RW	MP3 CD
ロゴ マーク	DVD VIDEO / DVD VIDEO	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	VIDEO CD	マークなし	マークなし

地域番号を確認してください

DVDプレーヤーとDVDディスクの地域番号（リージョンコード）が合っていなければ使用できません。地域番号はそれらの機器、DVDディスクが使用される国または地域ごとに割り当てられています。本機の場合はメディアセンターの底面にリージョンコードが記載されています。DVDディスクはジャケットやケースなどに記載されています。日本で視聴できるディスクには次のような記号があります。
また、業務用ディスクの中には、本機での再生が禁止されているものがあります。

2　1 2 4　ALL　など

地域番号	おおよその該当地域
1	アメリカ、カナダ
2	日本、ヨーロッパ(東欧の一部を含む)、中近東
3	東アジア、東南アジア
4	オーストラリア、ニュージーランド、中南米
5	東欧、アフリカ(南アフリカ共和国、エジプトを除く)、インド
6	中国(香港を除く)
ALL	全地域

設置作業を始めます

箱や梱包材は、後日修理やメンテナンス等が必要になった場合のために保管しておくことをおすすめします。

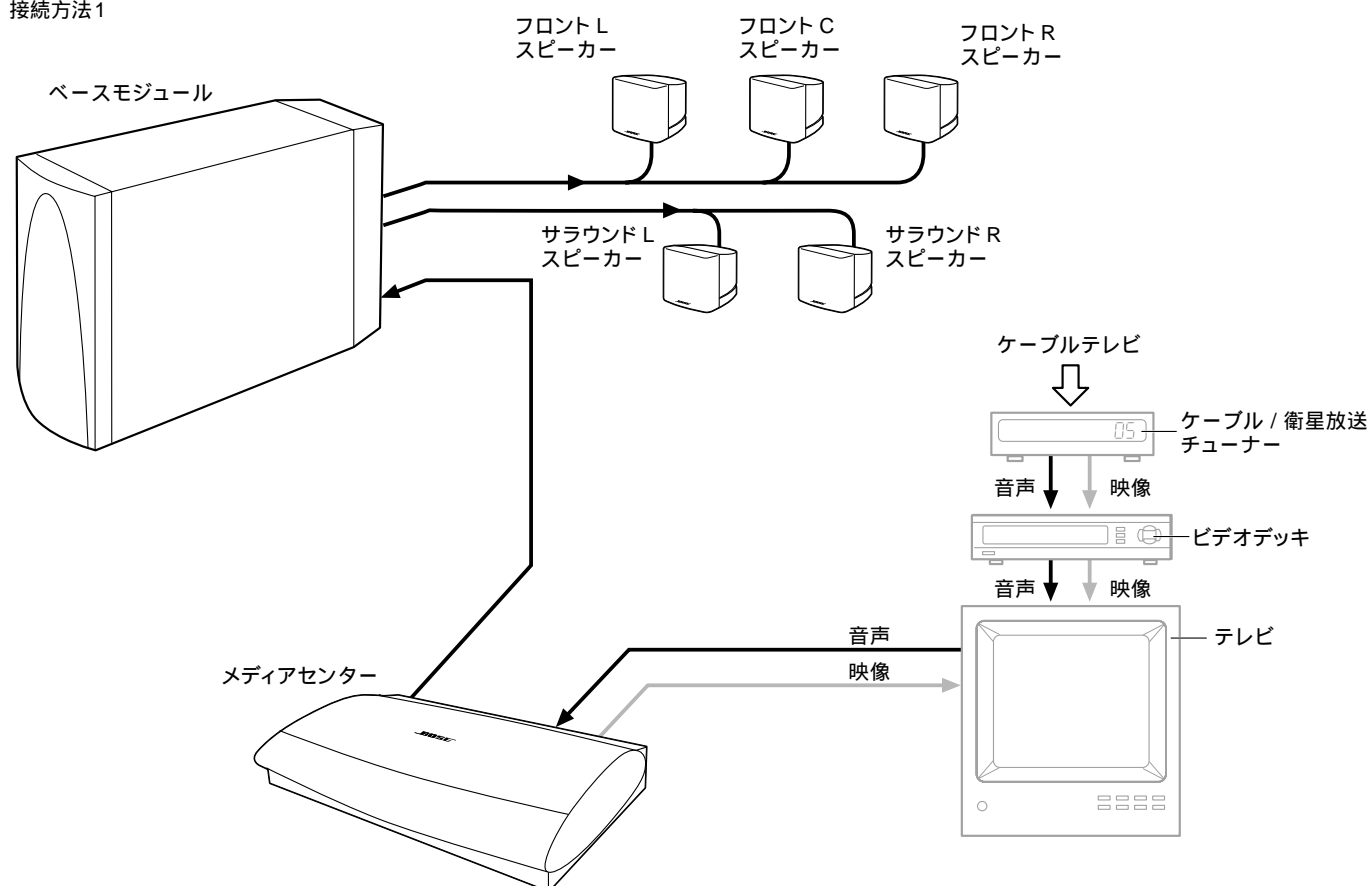
もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

⚠ 警告：製品を包んでいたビニール袋はかぶったり飲み込んだりして窒息する危険がないように、子供の手の届かない場所に保管するか、処分してください。

接続ブロック図

接続方法1

ビデオデッキなどの音声信号をテレビに接続し、メディアセンター側の入力では常にTV入力を選択して使用する方法を**図**1に示します。
外部ソースの変更は、お使いのテレビの入力切換で行います。

図1
接続方法1

接続方法2

外部ソースの切り換えをメディアセンターで行う場合の接続を**図**2に示します。

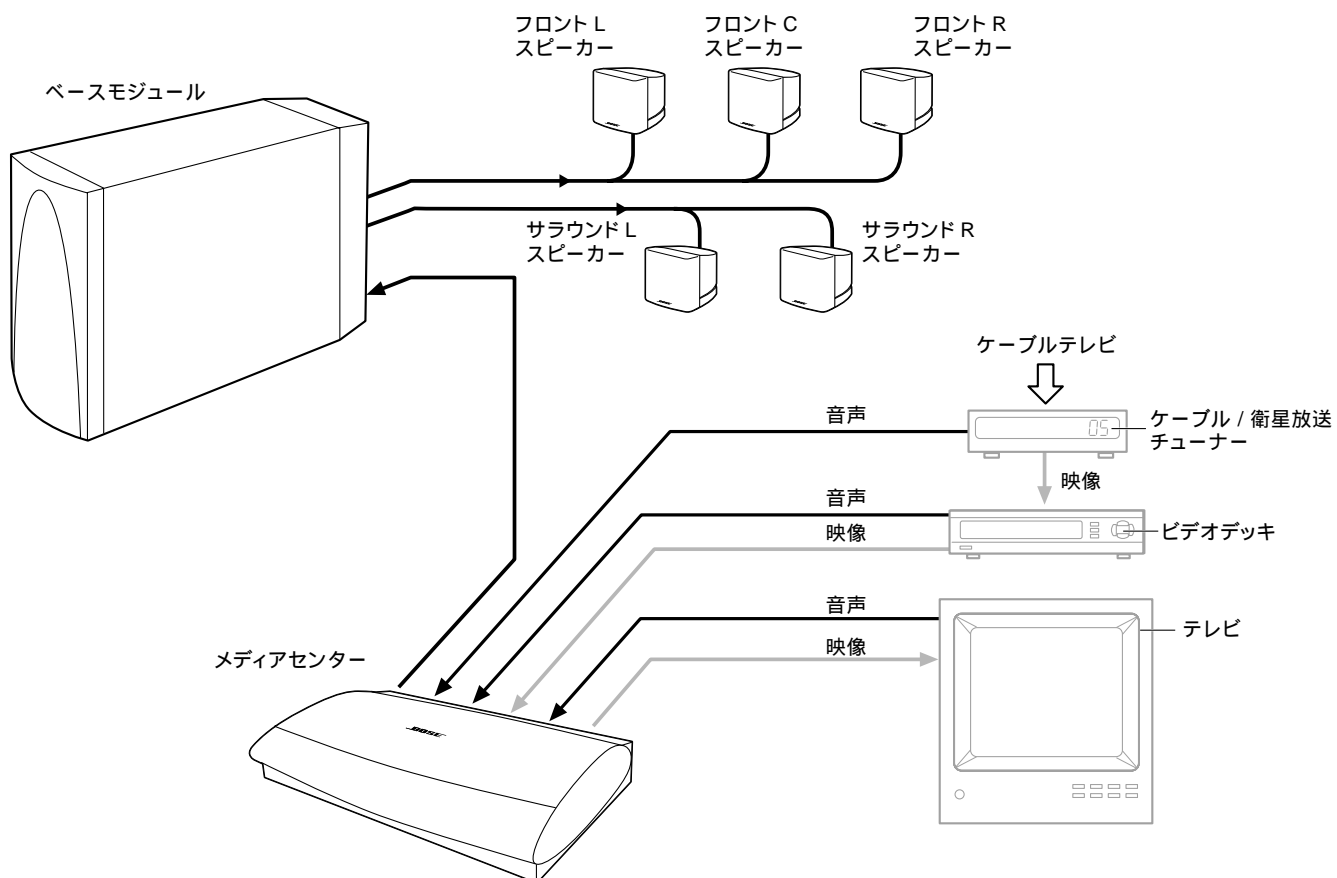
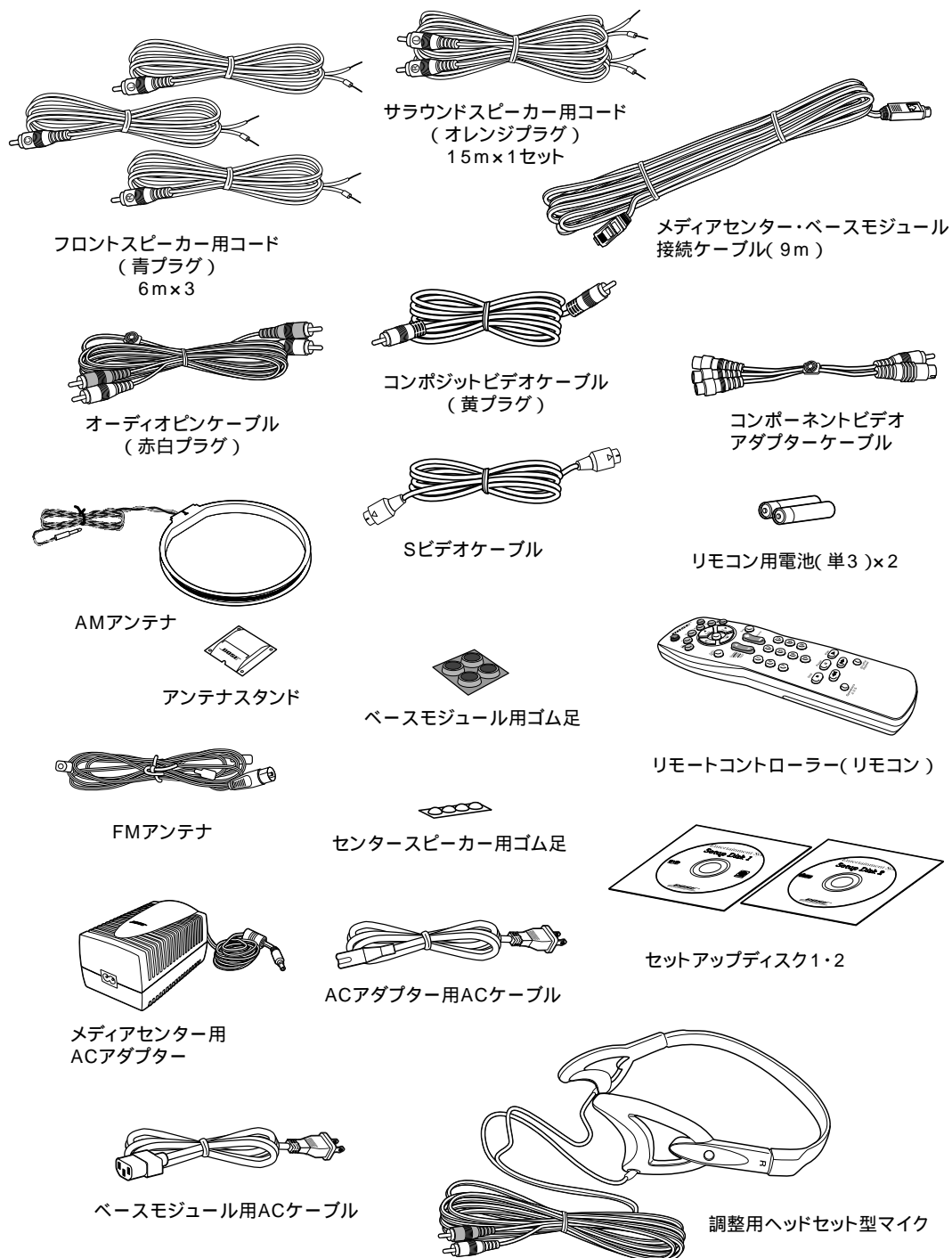
図2

接続方法2

付属品の確認

図3

付属品

1

設置方法

ここに示しました設置のガイドラインは、製品の性能を最大限に活かしてより広い空間印象でホームシアターをお楽しみ頂くためにおすすめするものです。ただし、これを参考にご自分のお好みやお部屋の状況に応じてより良い設置場所を探して頂いても構いません。また、「お部屋の状況」「スピーカーの位置」「リスナーの位置」に応じた最適な音響特性に調整するため、全てのスピーカーの設置と結線が終了した後に「アダプトIQ」による音場補正（22ページ参照）をあわせて行うことをおすすめします。

⚠ **警告：スピーカーを設置する部分が滑りやすい材質の場合は、スピーカーが音を出したときの振動などで滑って落下する恐れがあります。このような場所に設置する場合は滑り落ちないように滑り止めの処置を行って設置してください。**

フロントスピーカーの設置位置について

音場イメージと視覚イメージが一致するように、フロント左右のサテライトスピーカーから出る音声はテレビやスクリーンなどの画面の両端から聞こえるように設置します。

1. 大型テレビやスクリーンの場合は両脇にスピーカーを設置します。小さな画面のテレビの場合は、画面の端からそれぞれ60cm以内に設置することをおすすめします。ベースモジュールとサテライトスピーカーの距離は、付属のスピーカーコード（6m）の届く範囲内に設置してください。サテライトスピーカーを設置する高さは画面中央になるように設置することをおすすめします。

2. サテライトスピーカーは、壁のある方向あるいは前方以外に向けて反射音を作り出します（11ページ**図**5参照）。

♪：**サテライトスピーカーは、テレビの近くに設置しても画面に影響が出ないような防磁型を採用しています。**

♪：**天井から吊り下げたりして、極端に画面の高さと違う場合は音像の移動感と映像の移動とが不自然になります。極端に画面とスピーカーの高さは変えないほうが良いでしょう。**

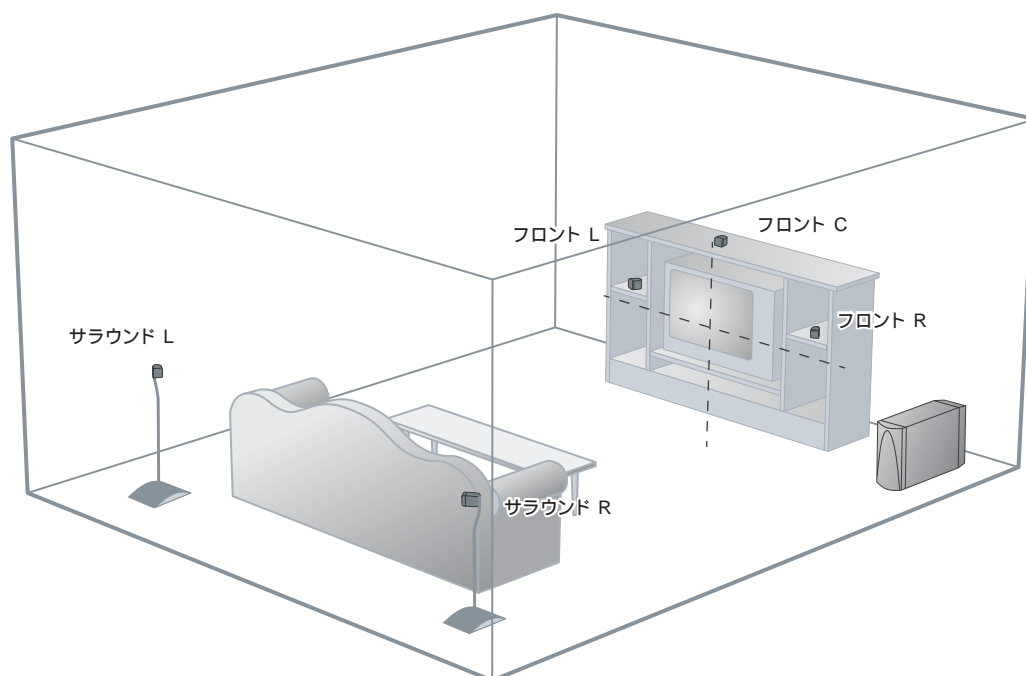
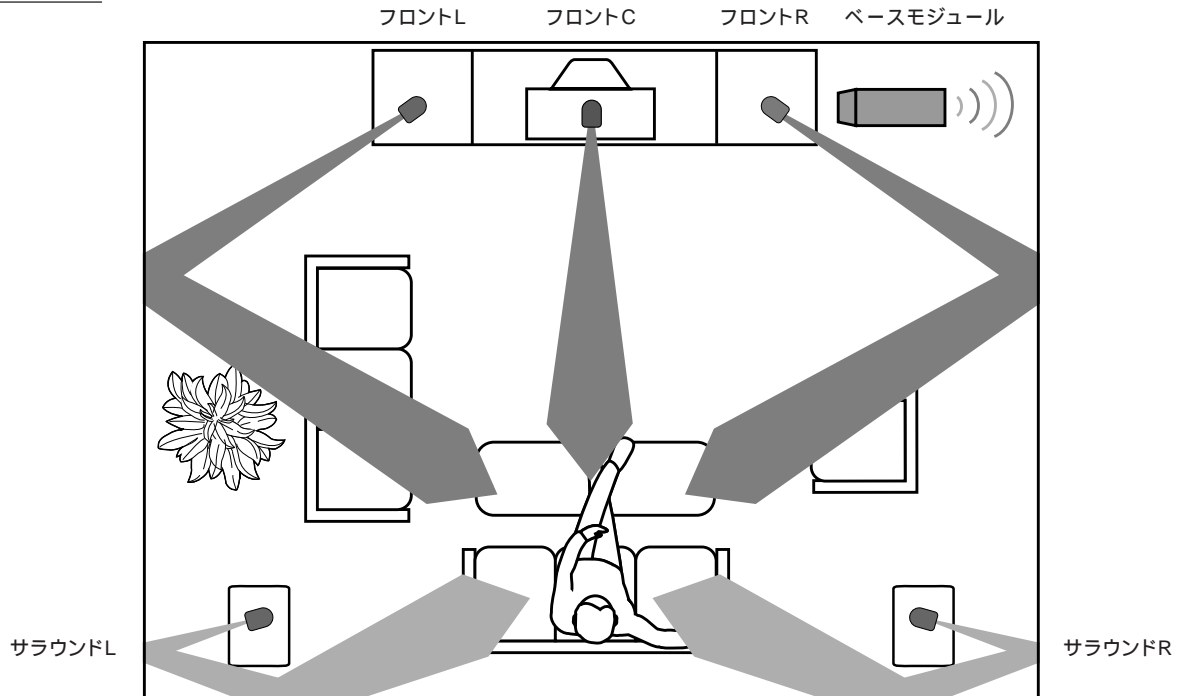
図4

スピーカーの設置

図5

システム設置例

センタースピーカーの設置位置について

センタースピーカーから出る音声が、画面の中央から聞こえるように設置します。ベースモジュールからの距離が付属のスピーカーコード(6m)の届く範囲内に設置してください。

♪：**天井から吊り下げたりして、極端に画面の高さと違う場合は音像の移動感と映像の移動とが不自然になります。極端に画面とスピーカーの高さは違えないほうが良いでしょう。**

1. サテライトスピーカー1台をセンタースピーカーとしてテレビの上または下のなるべく画面に近いところに置きます。下に置く場合はサテライトスピーカーに直接テレビの重量がかからないようにしてください。

♪：**センタースピーカーをテレビの上やラックの上にじかに置く場合は、安定性を良くするために付属のセンタースピーカー用ゴム足を使用してください。**

♪：**サテライトスピーカーは、テレビの近くに設置しても画面に影響が出ないような防磁型を採用しています。**

2. テレビの上に置く場合は、なるべく画面の一番手前になるように置いてください(テレビの奥の方には置かないでください)。

サラウンドスピーカーの設置位置について

1. リアサラウンド用サテライトスピーカーは、なるべくリスナーの横か部屋の半分より後ろ側に設置します。高さは耳の高さかそれより高い位置に設置します。

2. サラウンド用サテライトスピーカーの向きは**図**5のように、できるだけスピーカーからの音を反射させ、耳に届くまでの音の道のりが長くなるようにします。スピーカーの向きがリスニングポジションに向いてなくてもアダプトIQの実行で各スピーカーの特性は均一化されます。

ベースモジュールの設置位置について

次のことを確認して設置してください。

・ベースモジュールに接続するケーブル類が届く範囲内であること。

・設置する場所はテレビやフロントスピーカーが設置してあるのと同じ側であること（11ページ**図**5参照）。

・ベースモジュールは非防磁型のスピーカーなので、ブラウン管を使用しているテレビの場合は画面に影響を与えないように60cmは離れていること（機種とブラウン管のサイズによって異なります）。

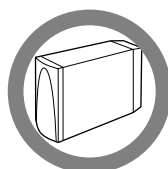
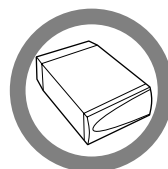
⚠ **注意：ベースモジュールは防磁処理がされていません。そのため、ビデオテープ、カセットテープ、その他磁気による記録媒体を直接あるいは近接した場所に保管すると内容が消えたり、再生できなくなる場合があります。磁気による記録媒体をベースモジュールの近くには保管しないでください。**

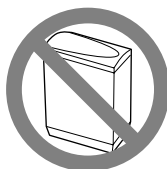
音の出る前面部分と後部スリットを塞がないようにしてください。

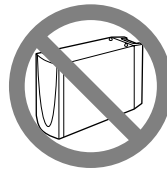
・ベースモジュールは、テーブルの下や、ソファーの陰などに設置することができます。その際、家具やカーテンがベースモジュール後部の換気冷却用スリットを塞がないように、また前面および後面と壁までの距離を5cm以上離してください。

・ベースモジュールは、音が出る前面部分が塞がれることを防ぎ、効率よく低音エネルギーが得られるように、ロゴが付いているグリル部分を部屋に向けるか、壁に沿うように設置します。壁面に向ける場合は5cm以上離してください。

・ベースモジュールは底面または、側面を下側にして設置することができます（**図**6参照）。

図6
ベースモジュールを設置するときの向き

最適な設置
この置き方が内部を一番効率よく冷却できます。

可能な設置
側面を下にして設置することもできます。

禁止
後部アンプ部を下にして設置しないでください。

禁止
前面グリル部を下にして設置しないでください。

禁止
逆さまに設置しないでください。

・置き方が決まったら、下の部分になるところの4すみに付属のゴム足をつけます。安定度を高め、床に傷が付くのを防ぎます。

⚠ **注意：ベースモジュール後部のスリット部分からの換気で内部の機器の冷却を行っていますので、決してスリット部分を塞がないようにしてください。**

メディアセンターの設置について

次のことを確認して設置してください。

・メディアセンターの前面には邪魔になるような物を置かないでください。また、フロントカバーを開けるだけの十分なスペース（10cm以上）を確保してください。インジケーター部分もよく見えるように設置してください。

・接続する機器（テレビやビデオデッキ）との距離がケーブルの届く範囲であることを確認してください。もし、付属のケーブルで届かない場合は、市販のオーディオケーブルや映像ケーブルをご用意ください。

・メディアセンターとベースモジュールを接続するケーブルは約9mあります。このケーブルの長さの範囲内に設置してください。

・すべての結線が終わるまで接続している機器の電源プラグはコンセントに差し込まないでください。

図7

メディアセンター

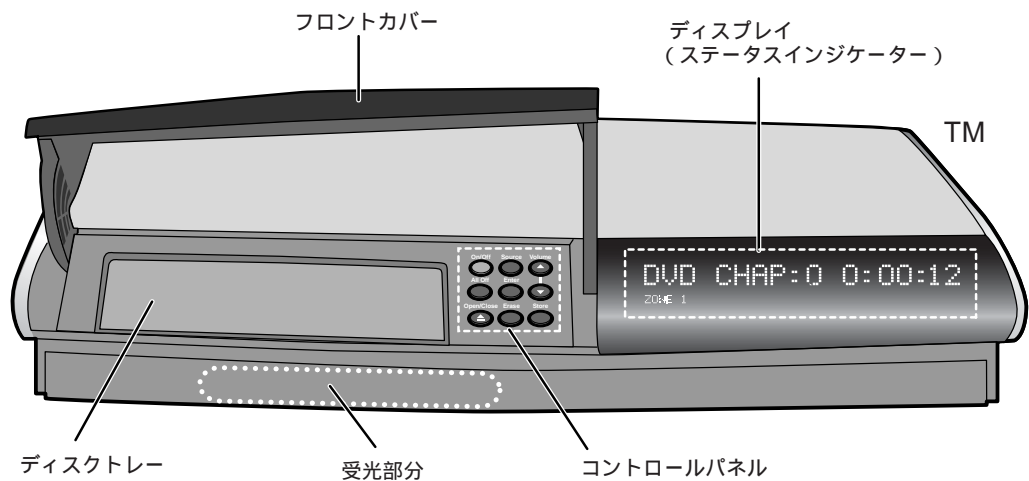
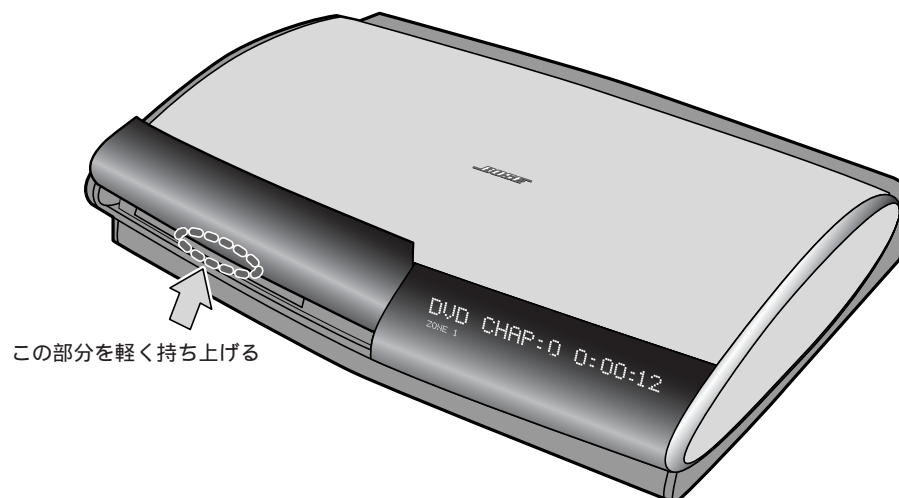



図8

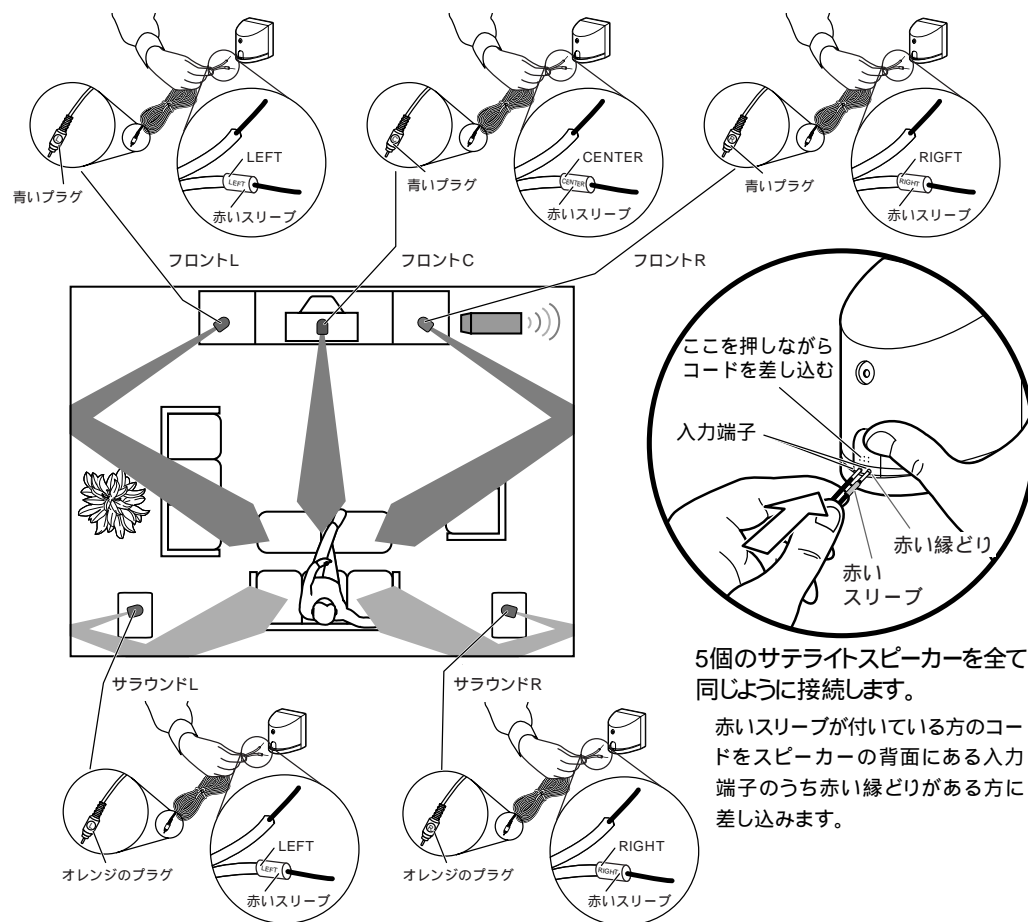
メディアセンターのフロントカバーの開け方

ベースモジュールとサテライトスピーカーの結線

・スピーカーコードをサテライトスピーカーに接続します（**図**9参照）。

2

図9

スピーカーコードの接続

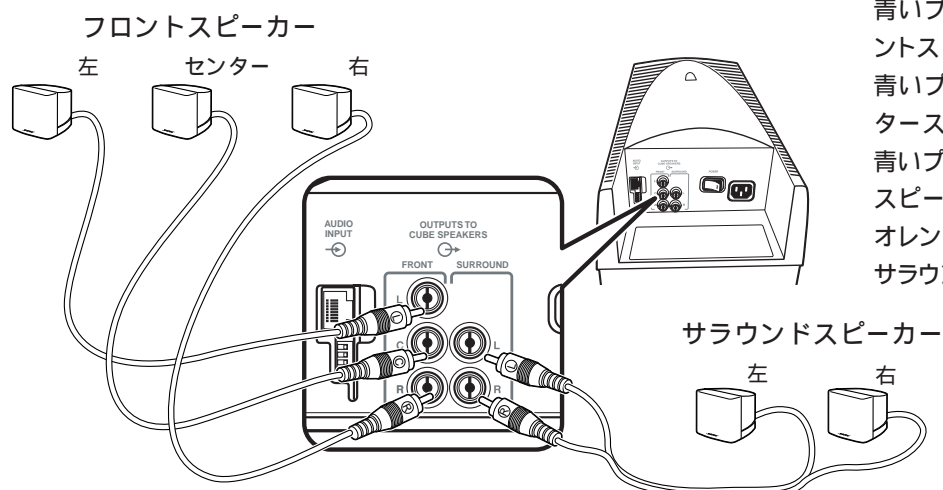
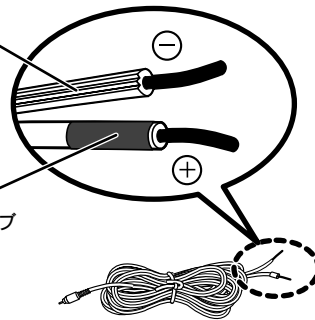
青いプラグ
LEFT
赤いスリーブ
青いプラグ
CENTER
赤いスリーブ
青いプラグ
RIGFT
赤いスリーブ
フロントL
フロントC
フロントR
ここを押しながらコードを差し込む
入力端子
赤い縁どり
赤いスリーブ
サラウンドL
サラウンドR
オレンジのプラグ
LEFT
赤いスリーブ
オレンジのプラグ
RIGHT
赤いスリーブ

5個のサテライトスピーカーを全て同じように接続します。

※赤いスリーブが付いている方のコードをスピーカーの背面にある入力端子のうち赤い縁どりがある方に差し込みます。

3

図10

ベースモジュールのスピーカー端子とスピーカーコードの接続

・スピーカーコードのピンプラグを確実にベースモジュールのジャックに差し込みます（**図**10参照）。

- 青いプラグ Ⓡ、RIGHTのコードは右フロントスピーカーにつないでください。
- 青いプラグ Ⓒ、CENTERのコードはセンタースピーカーにつないでください。
- 青いプラグⓁ、LEFTのコードは左フロントスピーカーにつないでください。
- オレンジのプラグⓇ、RIGHTのコードは右サラウンドスピーカーにつないでください。
- オレンジのプラグ Ⓛ、LEFTのコードは左サラウンドスピーカーにつないでください。

♪：スピーカー側は、赤いスリーブが付いている方が ⊕ になります。スリーブが取れてしまったり、コードを短くしてご使用になる場合は、図のようにコードに凸がある方が ⊖ になりますのでコードの凸を目印にしてください。

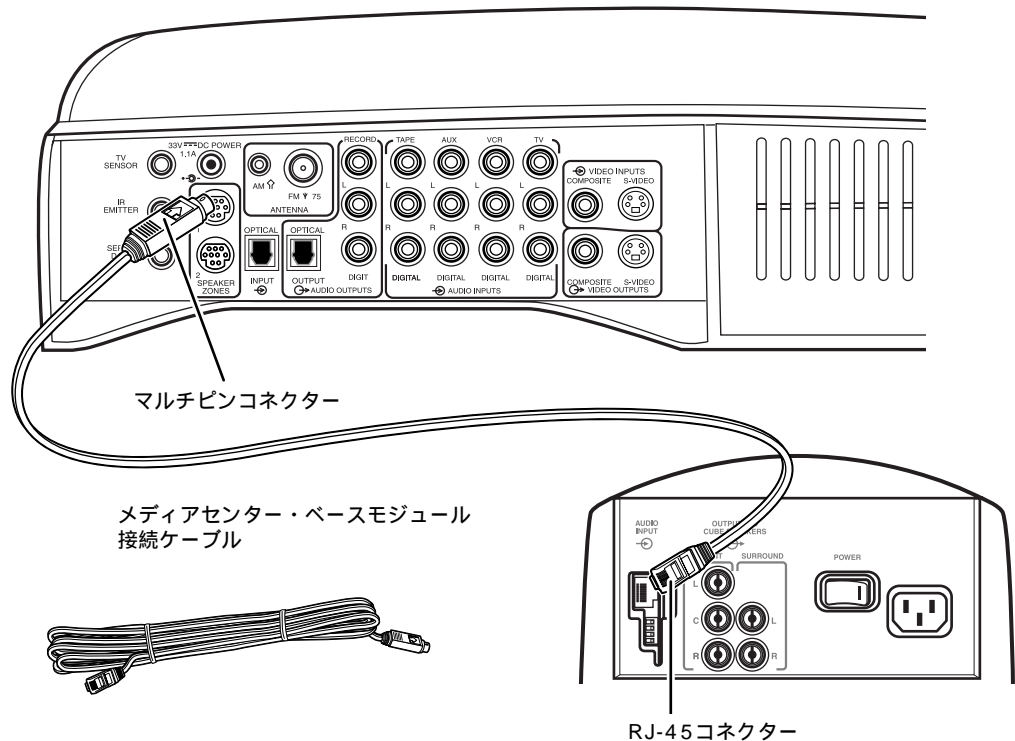
ベースモジュールとメディアセンターの接続

付属のメディアセンター・ベースモジュール接続ケーブルを使って、メディアセンターとベースモジュールを接続します（**図**11参照）。

1. マルチピンコネクターを平らな面を上にしてメディアセンター背面の‘SPEAKER ZONES の‘1’に差し込みます。
2. ケーブル反対側のRJ-45のコネクターを向きに気をつけてベースモジュールの‘AUDIO INPUT’ジャックに「カチッ」とロックするまで差し込みます。

図11

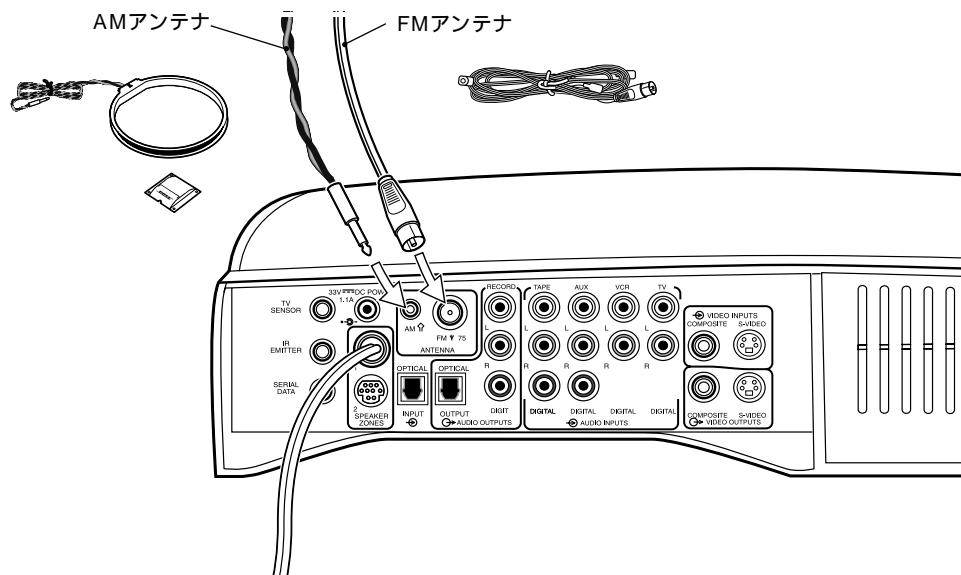
ベースモジュールとメディアセンターの接続

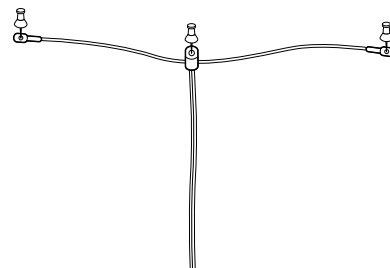
3

⚠ **注意：ベースモジュールにメディアセンター・ベースモジュール接続ケーブルがはまっているときに無理やりケーブルを引っ張らないでください。無理な力がかかると、コネクターを破損させる原因になります。コネクターをはずす場合はコネクターのタブ部分を押すとはずせます。**

付属アンテナの接続

メディアセンター背面にAMとFMのアンテナ接続ジャックがあります。アンテナ線は丸めたりせず、必ずのばした状態でご使用ください。

♪：**室外アンテナをご使用になる時**
電波の状況などは、地域によってさまざまですので、お客様の近くの電気店などにご相談ください。また、安全のためにも専門の業者にご相談ください。

図12
AMアンテナとFMアンテナを接続

FMアンテナの接続

1. メディアセンターのFMアンテナジャックに付属のFMアンテナのプラグを奥までしっかり差し込みます。
2. アンテナアームを広げます。アンテナの向きや位置をいろいろ試してみて最良の受信状態が得られる位置を探してください。また、アンテナはメディアセンターや他の機器からできるだけ離して設置してください。

AMアンテナの接続

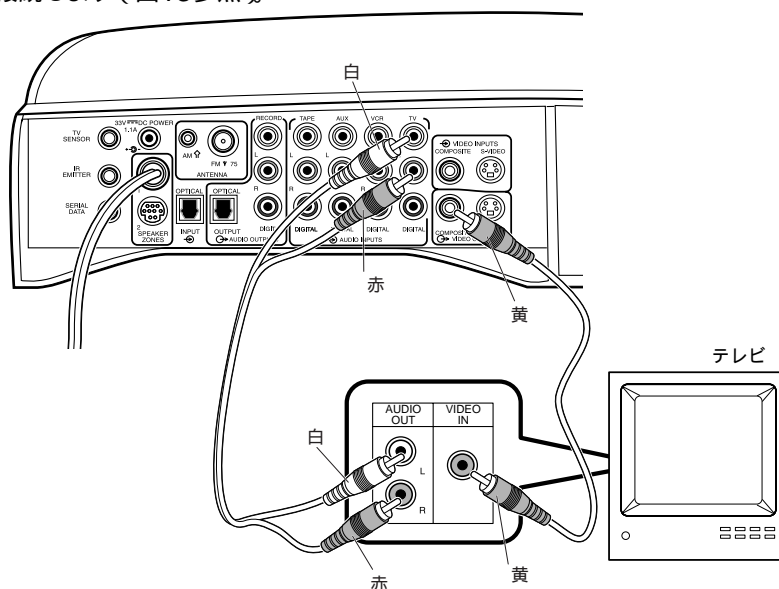
♪：**壁にアンテナを取り付ける際は、アンテナに同封してある説明書にしたがって作業を行ってください。**

1. メディアセンターのAMアンテナジャックに付属のAMアンテナのプラグを奥までしっかり差し込みます。
2. ループアンテナを付属のスタンドに立てる場合は、アンテナに付属の説明書をご覧ください。
3. アンテナのループをできるだけ電気器具から離してください。少なくともメディアセンターからは50cm以上、ベースモジュールからは60cm以上離して設置してください。アンテナの向きや位置をいろいろ試してみて最良の受信状態が得られる位置を探してください。窓際の方が感度が上がる場合が多いようです。メディアセンターやベースモジュールに近づけると受信感度が低下する場合があります。

テレビとの接続

音声信号の接続

テレビの音声出力端子とメディアセンターのTV音声入力端子を付属のオーディオピンケーブルを使用して接続します（**図**13参照）。

図13
メディアセンターとテレビの接続

映像信号の接続

コンポジット信号

メディアセンターのコンポジット出力（‘VIDEO OUTPUTS’の‘COMPOSITE’）端子とテレビのコンポジット入力端子を付属のコンポジットビデオケーブル（黄色のピンケーブル）で接続します（**図**13参照）。

S-ビデオ信号

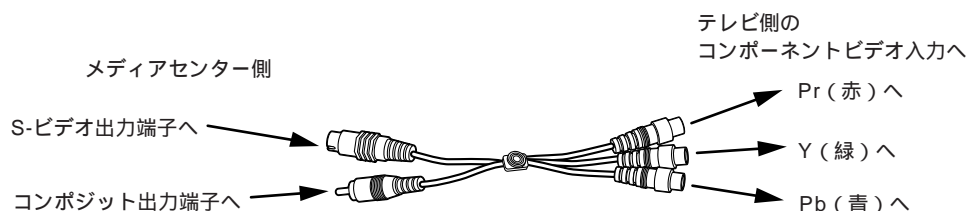
コンポジット信号より質の高い映像を映すことができる信号です。メディアセンターのS-ビデオ出力（‘VIDEO OUTPUTS’の‘S-VIDEO’）端子とテレビのS-ビデオ入力端子を付属のSビデオケーブルで接続します。

コンポーネント信号

コンポーネント信号は映像信号を3つに分けて送るため（Y、Pb、Pr）さらに質の高い映像が得られます。

・コンポーネント接続をするためには、付属のコンポーネントビデオアダプターケーブルを使用します（**図**14参照）。

♪：**コンポーネント信号を出力するためには、メディアセンターの設定を変更する必要があります。設定の変更方法は、操作ガイドの33ページ“映像出力”の項目を参照してください。**
なお、このケーブルはLS-18専用です。他の製品には使用できません。

図14
コンポーネントビデオアダプターについて

ビデオデッキとの接続

接続方法1(7ページ図1参照)の使い方をする場合は、ビデオデッキは直接テレビに接続してください。

⚠ **注意:メディアセンターとビデオデッキ、メディアセンターとテレビにそれぞれ接続している映像信号の種類は必ず同じにしてください。**

・テレビの映像入力端子とメディアセンターの映像出力端子をコンポジットビデオケーブル(黄色のピンケーブル)で接続している場合は、ビデオデッキの映像出力端子とメディアセンターの映像入力端子もコンポジットビデオケーブルで接続してください。

・テレビの映像入力端子とメディアセンターの映像出力端子をSビデオケーブルで接続している場合は、ビデオデッキの映像出力端子とメディアセンターの映像入力端子もSビデオケーブルで接続してください。

♪:**ビデオデッキに接続用のケーブルが付属されていない場合は、市販のオーディオ、映像ケーブルをご用意ください。**

音声信号の接続

ビデオデッキの音声出力端子とメディアセンターのVCR音声入力端子をオーディオピンケーブルを使用して接続します。

映像信号の接続

コンポジット信号

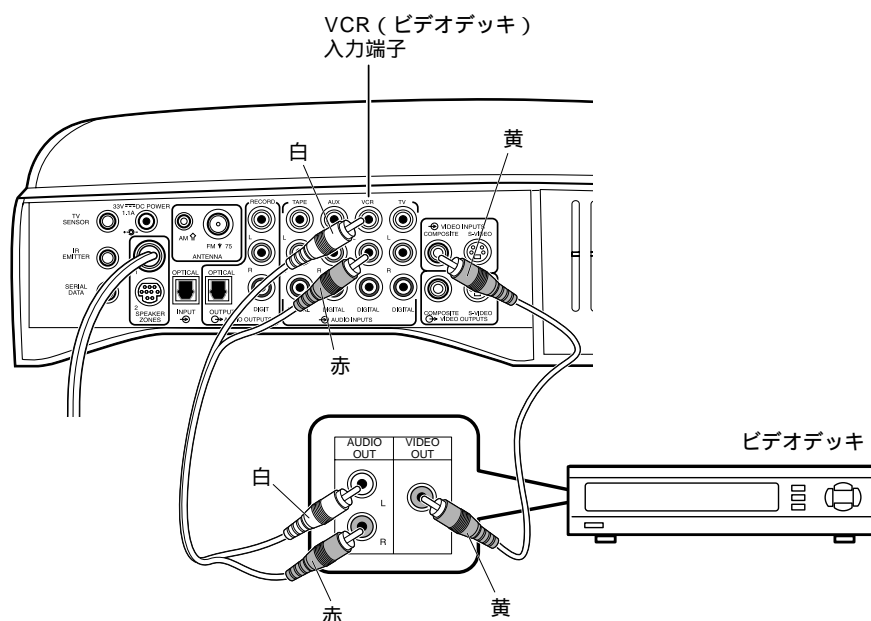
メディアセンターのコンポジット入力(' VIDEO INPUTS 'の' COMPOSITE ')端子とビデオデッキのコンポジット出力端子をコンポジットビデオケーブル(黄色のピンケーブル)で接続します(**図**15参照)。

S-ビデオ信号

コンポジット信号より質の高い映像を映すことができる信号です。メディアセンターのS-ビデオ入力(' VIDEO INPUTS 'の' S-VIDEO ')端子とビデオデッキのS-ビデオ出力端子をSビデオケーブルで接続します。

♪:**著作権保護のDVDを再生するときに、メディアセンターの映像出力端子とビデオデッキの映像入力端子を接続しないようにしてください。コピープロテクトの影響で画質が劣化する場合があります。**

図15

メディアセンターとビデオデッキの接続

ビデオデッキを使用しない場合のケーブルテレビチューナー、衛星チューナーの接続

接続方法1（7ページ図1参照）の使い方をする場合は、ビデオデッキは直接テレビに接続してください。

⚠ **注意：メディアセンターとケーブルテレビチューナー/メディアセンターとテレビにそれぞれ接続している映像信号の種類は必ず同じにしてください。**

・テレビの映像入力端子とメディアセンターの映像出力端子をコンポジットビデオケーブル（黄色のピンケーブル）で接続している場合は、ケーブルテレビチューナーや衛星チューナーの映像出力端子とメディアセンターの映像入力端子もコンポジットビデオケーブルで接続してください。

・テレビの映像入力端子とメディアセンターの映像出力端子をSビデオケーブルで接続している場合は、ケーブルテレビチューナーや衛星チューナーの映像出力端子とメディアセンターの映像入力端子も全てSビデオケーブルで接続してください。

♪：**ケーブルテレビチューナーや衛星チューナーに接続用のケーブルが付属されていない場合は、市販のオーディオ、映像ケーブルをご用意ください。**

音声信号の接続

ケーブルテレビチューナーや衛星チューナーの音声出力端子とメディアセンターのAUX音声入力端子を市販のオーディオピンケーブルを使用して接続します。

♪：**このAUX音声入力端子にはシステム調整を行うときに調整用ヘッドセット型マイクを接続します（20ページ図**17**参照）ので、アダプトIQによる音場補正が終了するまでこの入力端子には何も接続しないでください。**

映像信号の接続

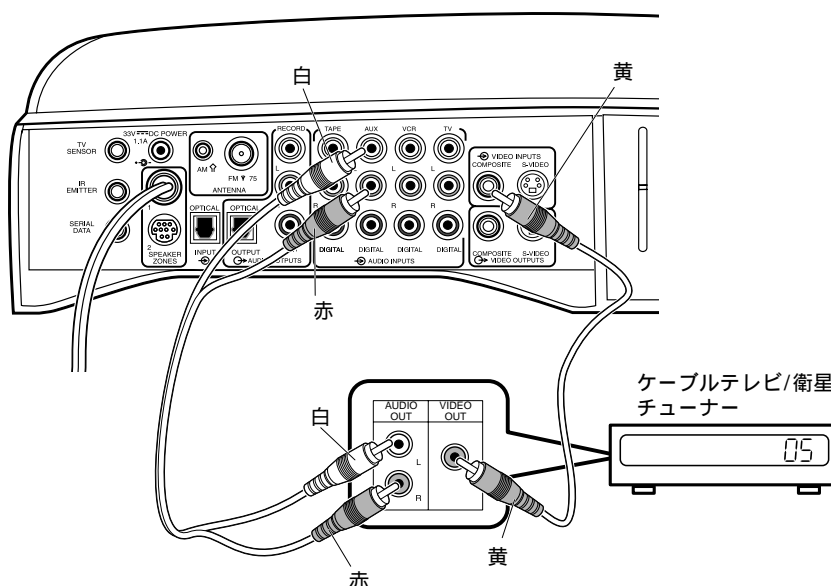
コンポジット信号

メディアセンターのコンポジット入力（‘ VIDEO INPUTS ’の‘ COMPOSITE ’)端子とケーブルテレビチューナーや衛星チューナーのコンポジット出力端子をコンポジットビデオケーブル（黄色のピンケーブル）で接続します（**図**16参照）。

S-ビデオ信号

コンポジット信号より質の高い映像を映すことができる信号です。メディアセンターのS-ビデオ入力（‘ VIDEO INPUTS ’の‘ S-VIDEO ）端子とケーブルテレビチューナーや衛星チューナーのS-ビデオ出力端子をSビデオケーブルで接続します。

図16

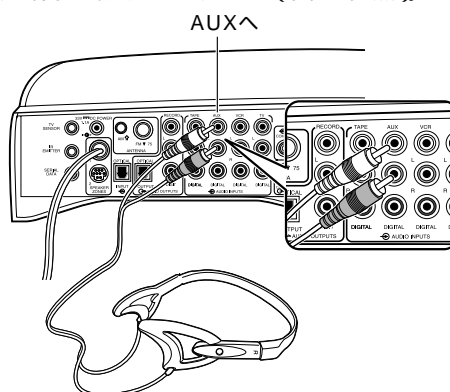
ケーブルテレビチューナー、衛星チューナーとの接続

テレビからの音声について

テレビの音声をLS-18で楽しむ場合、テレビに付いているスピーカーから音が出ないように設定します。テレビの設定で内蔵スピーカーを使用しないように設定してください。もし、テレビに内蔵スピーカーを切る設定がない場合は、テレビの音量を最小にしておきます。テレビの設定についての詳しい内容はテレビの取扱説明書をご覧ください。

調整用ヘッドセット型マイクを接続します

図17

メディアセンターとヘッドセット型マイクの接続

電源を接続する前に、システム調整を行うために、付属の調整用ヘッドセット型マイクをメディアセンター背面のAUX音声入力端子に接続してください(**図**17参照)。

電源を接続します

2つの電源コードを接続します。

図18

ベースモジュールとACケーブルの接続

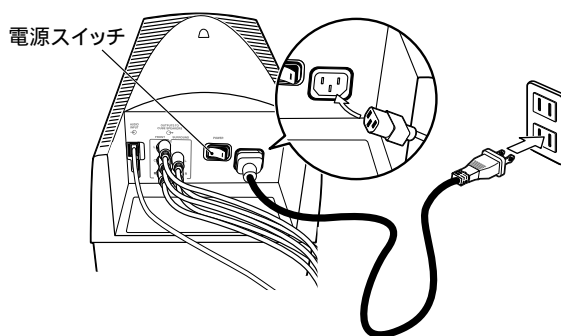
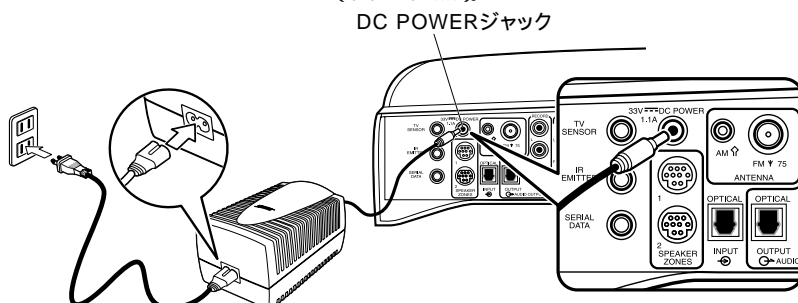
1. ベースモジュール用ACケーブルの片側(3つの穴の方)をベースモジュールの電源ジャックにしっかり奥まで差し込みます。反対側を壁のコンセントに差し込みます(**図**18参照)。

2. ベースモジュールの電源スイッチを入れます。
3. メディアセンター用ACアダプターの丸い小さなプラグを、メディアセンター背面のDC POWERジャックにしっかり差し込みます(**図**19参照)。

図19

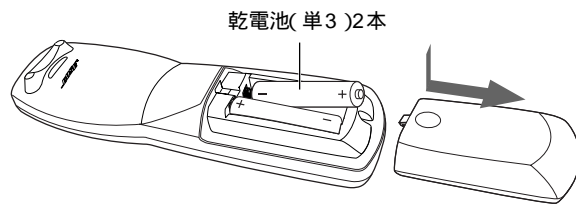
メディアセンターとACアダプターの接続

4. ACアダプター用ACケーブルの片側(2つの穴の方)をACアダプターの差し込み口にしっかり差し込み、反対側のACプラグを壁のコンセントに差し込みます。

リモコンの電池の入れかた

1. リモコンを裏返しにしてバッテリーカバーを下に押し込みながら引き出すように電池ボックスを開けます。
2. ボックス内の表示に合わせて乾電池（単三型2本）を入れてください。
3. スライドさせるようにしてバッテリーカバーを閉めてください。

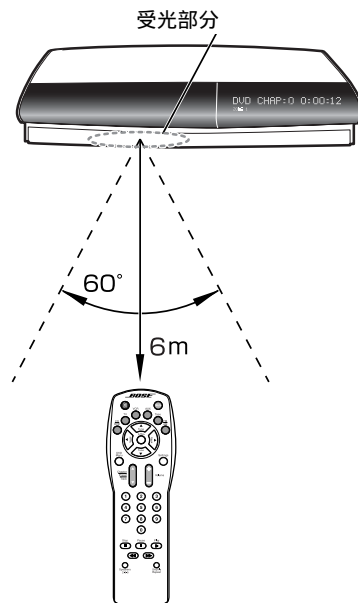
⚠ 注意：付属の乾電池は動作チェック用として同梱してあります。新品の乾電池よりは使用期間が短くなりますので、リモコンの効きが悪くなってきた場合は、新しい乾電池と交換してください。

図20

リモコンの電池の入れ方

⚠ 電池についての注意

- **乾電池の⊕と⊖の向きを電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。**
- **新しい乾電池と古い乾電池、または、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。**
- **乾電池は絶対に充電しないでください。**
- **長い間（1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、乾電池をリモコンから取り出しておいてください。**
- **液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。**

図21

リモコンの動作範囲

⚠ 使用上の注意

- **メディアセンターの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコンの操作ができないことがあります。**
- **本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますので、ご注意ください。**
- **リモコンとメディアセンターの受光部の間に障害物があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができないことがあります。**

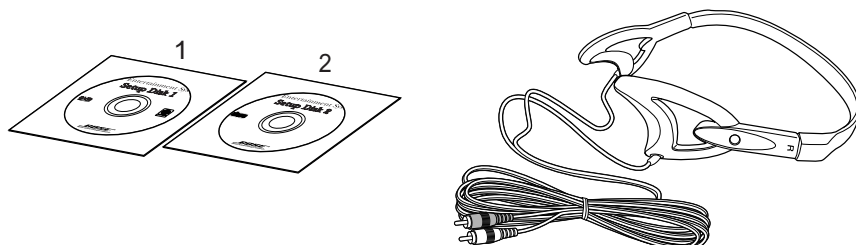
電池の交換時期について

リモコンの電池が消耗すると、リモコンの動作範囲が狭まってきて効きが悪くなってきます。このような症状が出てきたらリモコンの乾電池を2本とも新しい乾電池に交換してください。

「アダプトIQ」による音場補正（システム調整）

付属品の中の白い小箱に2枚のセットアップディスクと専用のヘッドセット型マイクが入っています。

図22

付属品の小箱の中

・セットアップディスク1を使ってスピーカーの結線が正しくされているかをチェックします。

・セットアップディスク2では「アダプトIQ（ADAPTiQ）システム」によってご使用になる部屋の音響特性に合わせて LS-18を調整します。

・ヘッドセット型マイクはセットアップディスク2の「アダプトIQ」による部屋の音響特性を調整するときに使用します。このヘッドセット型マイクは、調整作業中でテレビ画面に指示が出たときに使用します。

これらの2枚のディスクは全てのスピーカーの設置と結線が終了した後に使用します。

♪：**調整の作業が完了するまで、約20分かかります。調整の最中に雑音が入ると正しく調整できませんので、誰からも迷惑をかけられたり、かけなくてもすむ状況のときに行うことをおすすめします。**

システム調整の開始

1. テレビの電源を入れてください。また、テレビの入力切り換えが正しく行われていることを確認してください。

2. メディアセンターのフロントカバーを開けて**Open/Close**ボタンを押してください。

3. セットアップディスク1をディスクトレーにレーベル面を上にしてセットし、もう一度**Open/Close**ボタンを押してください。

4. リモコンの**CD/DVD**ボタンを押します。

5. ディスクの再生が始まります。再生される内容をよく見て、聴いて指示にしたがってください。セットアップディスク2に交換するタイミングの指示もされますので、その指示にしたがってセットアップディスク2をセットし、再生します。

♪：**セットアップディスク2を再生すると、付属のヘッドセット型マイクを使用するタイミングの指示があります。付属のヘッドセット型マイクは耳の上にかけて使用します。**

2枚のディスクの指示に従ってシステム調整を行えば、お聴きになる場所での音響特性が最適な状態になるように調整されます。

・別の部屋にLS-18を設置しなおしたり、お部屋の中の模様替えを行ったときなどはお部屋の音響特性が変わってしまいます。そのような場合は、必ず“「アダプトIQ」による音場補正（システム調整）”を行って変わってしまった音響特性を調整してください。

♪：**ヘッドセット型マイクとセットアップディスク1、2 は一緒にして、入っていた箱にしまい後日使用できるように安全な場所に保管しておいてください。**

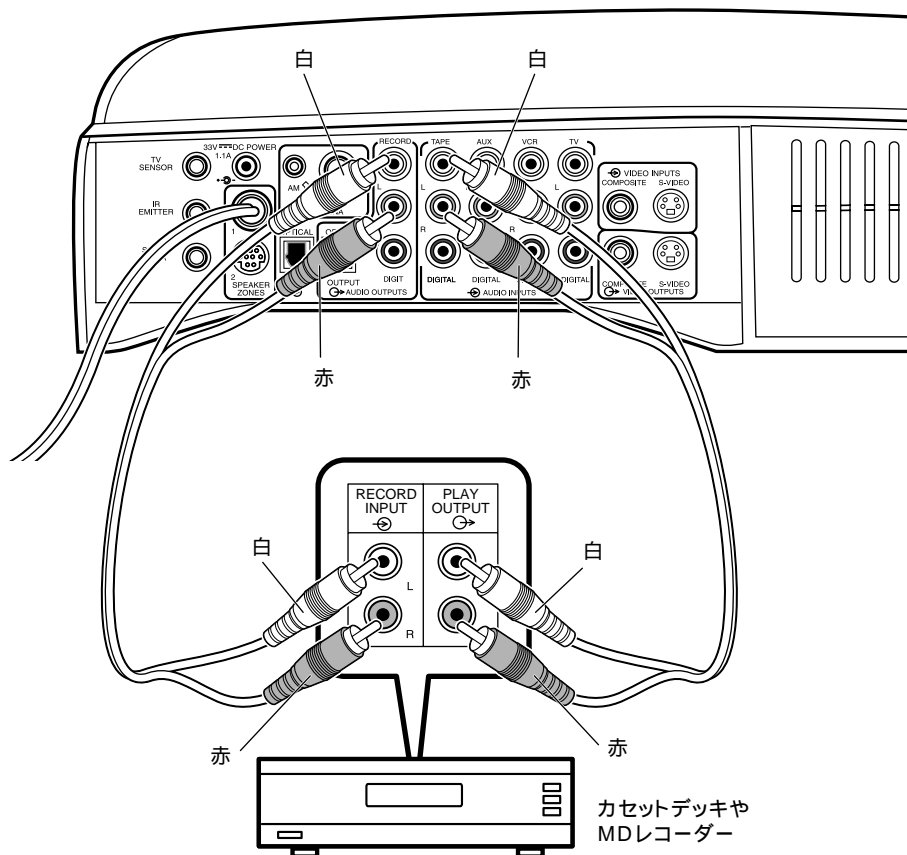
外部の機器の接続について

外部の機器を接続するには、市販のオーディオピンケーブルを使用します。
オーディオケーブルは一般的に赤いプラグが右チャンネル用で、白または黒いプラグが左チャンネル用です。

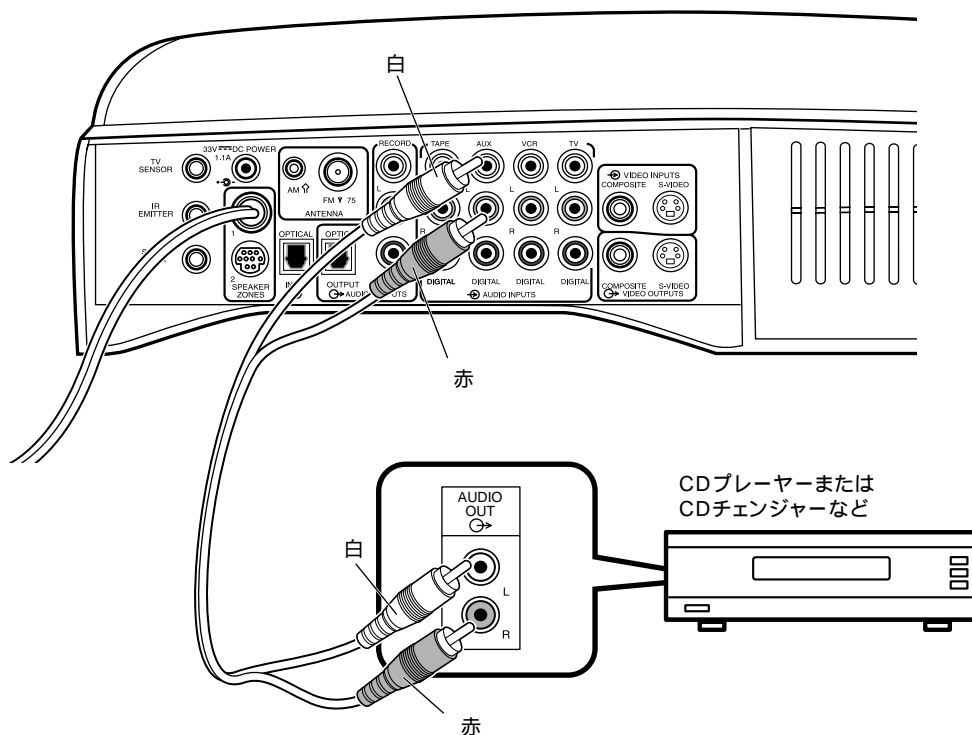
♪：**外部の機器の操作をメディアセンターから行うことはできません。また、外部の機器の使い方は、それぞれの機器の取扱説明書をご参照ください。**

録音再生用の機器の接続

カセットデッキや、MDレコーダーを接続するには**図**23のようにオーディオピンケーブルをそれぞれの端子に接続してください。

図23
録音再生用の機器の接続

再生専用機器の接続

外部のCDプレーヤーや、CDチェンジャーなどを接続する場合は、図24のようにオーディオピンケーブルを接続してください。

図24
再生専用機器の接続

デジタル音声入出力端子への接続

接続する外部の機器にデジタル音声入/出力端子がある場合、メディアセンターとデジタルで接続することができます。

♪：**LS-18でDTS録音ソースを再生した場合、本システムで再生はできますが、デジタル出力端子からはDTSビットストリーム信号は出力されません。また、外部の機器からのDTSビットストリーム信号をデジタル入力端子に入力しても再生できません。**

同軸デジタル信号の場合

ピンプラグのインピーダンス75Ω同軸ケーブルを使用して接続します。映像ケーブルを使用することもできます。

光デジタル信号の場合

外部の機器に光デジタル入/出力端子がある場合、外部の機器の入/出力端子とメディアセンターの光デジタル入/出力端子を市販の角型光デジタルケーブルを使用して接続してください。

♪：**光入力端子を使用する場合は、操作ガイドの33ページの“光入力ソース”と“光デジタル入力”の項目をご覧になって光デジタル入力端子が使用できるように設定を変更してください。**

故障かな？と思ったら

問　　題	対　　　　応
システムが全く機能しない	• メディアセンター・ベースモジュール接続コードとメディアセンターが確実に接続されていて、ベースモジュールのACコードが確実に差し込まれており、ACプラグが確実にコンセントに差し込まれていることを確認してください。 • 音源の選択が行われていることを確認してください。
音声が全く出ない	• ベースモジュールの電源がONになっていることを確認してください。 • モジュール接続コードがメディアセンターの" SPEAKER ZONES "の 1 "出力端子に接続されており、コードの反対側がベースモジュールにしっかり接続されていることを確認してください。 • ACプラグをコンセントから抜いて、約1分以上放置して、もう一度電源を入れ直してください。 • 外部の機器との接続をチェックしてください。希望する音源に対して適切な入力端子を選択しているか確認してください。 • スピーカーコードの接続をチェックしてください。 • ディスクがメディアセンターに正しくセットされていることを確認してください。 • ボリュームを上げてみてください。 • ミュートがかかっている場合は、リモコンの**Mute**ボタンを押しミュートを解除してください。 • FM/AMアンテナが正しく接続されていることを確認してください。
音が歪んでいる	• スピーカーコードに損傷したところがないか確認してください。 • 外部の機器からの出力が大きすぎないか確認してください。
センタースピーカーから音が出ない	• センタースピーカーが間違いなく接続されているか確認してください。 • スピーカーモードが３または５が選ばれていることを確認してください。 •" システム設定 "の" 音声設定 "項目内" センターチャンネル "の項目を選び、音量を調整してください（操作ガイド３１ページ参照）。
センタースピーカーからの音が大きすぎる	•" システム設定 "の" 音声設定 "項目内" センターチャンネル "の項目を選び、音量を調整してください（操作ガイド３１ページ参照）。
サラウンドスピーカーから音が出ない	• すべてのスピーカーの結線に間違いがないか確認してください。 • ５スピーカーモードを選択されていることを確認してください。 •" システム設定 "の" 音声設定 "項目内" サラウンド "の項目を選び、音量を調整してください（操作ガイド３１ページ参照）。
サラウンドスピーカーからの音が大きすぎる	•" システム設定 "の" 音声設定 "項目内" サラウンド "の項目を選び、音量を調整してください（操作ガイド３１ページ参照）。
リモコンが正しく働かない、あるいはまったく働かない	• 電池装着および、その極性（⊕と⊖）をチェックしてください。 • 新しい電池に交換してみてください。 • リモコンをメディアセンターの受光部分に近づけて操作してください。
ラジオが動作しない	• アンテナが正しく接続されていることを確認してください。 • アンテナの位置を調節して、受信状態を改善してください。 • 信号が弱い地域の可能性があります。 • AMアンテナを本機からもっと離してみてください。 • FMの場合、テレビのアンテナ信号を分配器を使って分配してみてください。
FM サウンドが歪んでいる	• アンテナの位置や向きを調節してください。

問　題	対　応
ディスクが演奏できない	・表示部のプレイ ▶ 記号が点灯しているかチェックしてください。 ・正しくディスクがメディアセンターにセットされているかを確認してください。 ・**CD/DVD**ボタンを押して数秒待って　▶ **PLAY**ボタンを押してください。 ・ディスクを入れ直してください。 ・ディスクにキズや汚れなどがついている可能性があります。別のディスクを使ってみてください。 ・レーザーピックアップあるいはディスクに塵やゴミが付いている可能性があります。市販のクリーニングキットを使ってみてください。 ・本機が対応していないディスク（データーCDなど）を再生しようとしています。 ※**「コピーガードや長時間記録など特殊な処理を施されたCDをかけた場合、正しく再生されないことがありますのでご注意ください。」** ・DVDビデオディスクの場合、地域番号（リージョンコード）が正しいか確認してください。
外部機器からの音声が出ない	・入力切換で正しく外部の機器を選んでいるかチェックしてください。 ・接続をチェックしてください。 ・外部機器の取扱説明書を参照してください。
TV、TAPE、VCR、AUXに接続した外部機器からの音声の低音が大きすぎる	・“ フイルムEQ ”がかかっていないかを確認し、かかっているようであれば解除してください（操作ガイド31ページ参照）。
画像がでない	・テレビの電源が入っているか確認してください。 ・LS-18の電源が入っているか確認してください。 ・メディアセンターのコンポジット映像出力あるいはSビデオ映像出力がテレビに確実に接続されているか確認してください。 ・テレビ側の入力切換が適正ポジションであるか確認してください。
再生画像がでない、乱れる（DVD 画像）	・ディスクが、メディアセンターに正しくセットされていることを確認してください。 ・DVD以外のディスクが入っていないか確認してください。 ・ディスクにキズや汚れなどがついている可能性がある。別のディスクを使ってみてください。 ・本機が対応していないディスクを再生しようとしてます。 **※本機が再生できるソフトは、リージョンコード（発売地域割当コード）が2のソフトです。** ・メディアセンターのビデオ出力ケーブルが直接テレビにつながれていることをチェックしてください。 **※途中に別の機器をつなぐと映像が正しくでません。**
再生画像がでない、乱れる（ビデオ画像）	・ビデオ側の電源が入っているか確認してください。 ・ビデオテープが正しく挿入されているか確認してください。 ・ビデオの映像出力ケーブル（黄色）が、本機の映像入力端子に正しく接続されているか確認してください。 ・ビデオケーブルが不良の場合は、他のケーブルと交換してください。
画面が乱れる、あるいは白黒になっている	・“ システム設定 ”の“ テレビ放送方式 ”で［NTSC］が選択されていることを確認してください。 ・“ システム設定 ”の“ 映像出力 ”の設定（［通常］または［コンポーネント］）が適切であるか確認してください（コンポジットまたは、Sビデオでは［通常］、コンポーネントビデオアダプターケーブル使用時は［コンポーネント］を選択して下さい）。
DVD ディスクを演奏しようとすると、暗証番号の入力を要求される	・本機の視聴許可レベルがDVDソフトのレベルより低いレベルに設定されている。“ 視聴制限サブメニュー ”（操作ガイド34ページ参照）で本機のレベルの設定を変更してください。 ・演奏しようとするDVDソフトに視聴制限の設定がされていないのに、本機のDVD視聴制限が［入］に設定されています。視聴制限サブメニュー（操作ガイド34ページ参照）DVDの視聴制限を［切］に変更してください。

故障の場合のお問い合わせ先

故障及び修理のお問い合わせは、ボーズ・サービスセンター株式会社 ☎ **042-357-5250**
住所 〒206-0035 東京都多摩市唐木田1-53-9 唐木田センタービル
製品等のお問い合わせは、ボーズ株式会社インフォメーションセンター ☎ **03-5489-0955**
までご連絡ください。

保証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

仕様

●サテライトスピーカー（防磁型）

ユニット構成	60mmドライバー×1（1本）
外形寸法	78（W）×78（H）×104（D）mm
質量	550g（1本）

●ベースモジュール（非防磁型）

ユニット構成	13cmウーファー×2
外形寸法	633（W）×410（H）×205（D）mm
質量	16kg
＜内蔵アンプ部＞	
フロント定格出力	20W×3
サラウンド定格出力	20W×2
ベース定格出力	90W
電源電圧	AC100V（50/60Hz）

●メディアセンター

外形寸法	400（W）×95（H）×290（D）mm
質量	3.7kg
電源電圧	AC100V（50/60Hz） ※ACアダプター使用
＜プリアンプ部＞	
音声入力	アナログ/デジタル（同軸/光）×4
音声出力	アナログ/デジタル（同軸/光）×1
映像入力	コンポジット×1、S端子×1
映像出力	コンポジット×1、S端子×1
＜DVD/CDプレーヤー部＞	
再生周波数帯域	20Hz～20kHz（±0.5dB）
＜チューナー部＞	
FM受信周波数/チャンネルステップ	76.0～90.0MHz/100kHz
AM受信周波数/チャンネルステップ	531～1629kHz/9kHz

●付属品

赤外線リモコン、FMアンテナ、AMアンテナ、ケーブル類一式、ACアダプター、
調整用ヘッドセット型マイク、セットアップディスク1・ディスク2

ボーズ株式会社
http://www.bose.co.jp/
〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷ＹＴビル　ＴＥＬ03-5489-0955

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-1261
04•12-0.5K-C•1(I-M)